令和4年度 日本大学スポーツ科学部 個人研究費 研究実績報告書

所属: スポーツ科学部 競技スポーツ学科

資格: 専任講師 氏名: 澤野 大地

研究課題名	陸上競技・棒高跳のパフォーマンス向上に関するトレーニング学的考察
研究目的及び 研究概要	これまでの棒高跳の先行研究では跳躍動作や助走に関する研究が多く、トレーニング学的観点に焦点を当てた研究は少ない。本研究ではトレーニング学的観点からパフォーマンス向上に関しての取り組みを考察することにより、陸上競技跳躍種目、特に棒高跳のパフォーマンスの向上おける基礎的知見となることを目的とした。
研究実績の概要研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	今年度は7月にアメリカ・オレゴン州で世界陸上競技選手権大会が行われたため、現地にで日本および世界の一流競技者における競技がプォーマンスについて調査を行った。今大会の男子棒高階では、優勝した各陣の間 Duplantis選手が6周21の世界第音線を樹立しただけではなく、3位のErnest Obiena選手は5m94のアジア新記録、8位のErsu Sasma選手は5m80のトルコ新記録と史上最高レベルのパフォーマンスが発揮された。また男子棒高眺の予選における予選通過記録や入賞者の記録においても、地去10年間の世界陸上競技選手権大会で史上最高レベルのパフォーマンス発揮された大会となった。引き続き日本および世界の一流競技者における競技パフォーマンスの変遷や動向調査を行い、今年度の世界陸上競技選手権大会でのパフォーマンス発揮された影響についてなど、今後インタビュー調査などを実施しながらそれぞれのデータをトレーニング学的観点から分析を行っていく予定である。